

目指す学校像	生徒一人ひとりの「よさ」を伸ばし、次代をたくましく生き抜くための学力と規範意識を身に付けた人間を育てる
--------	---

重点目標	1 生徒一人ひとりに見合った学習環境を提供し、基礎学力を確実に向上させ、自ら考え、判断し、表現する力につなげる 2 生徒一人ひとりの資質を把握し、個々に目標・目的を持たせ、規律ある学校生活を送らせる 3 積極的な広報活動を行うとともに、保護者・地域・関係諸機関との連携を強化する
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	9名

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標					年度評価（1月16日現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】授業に真剣に取り組み理解している生徒が増加し、進路実現に向けて目的意識を持って、意欲的に学校生活を送っている。</p> <p>【課題】授業の振り返りや個別指導、ICT活用、AL等により学習活動の充実を図っているが、基礎学力の定着には繰り返しが必要であり、さらに実践力に結び付けるにはまだ不十分である。目に見える形として、目標を高く持ち資格検定を受験・合格する生徒を増やすことで自信を持たせる。</p>	<p>○基礎学力を定着させる授業実践と授業研究を行い教員の指導力を向上させる。</p> <p>○朝学習、通常補習や長期休業補習の講座へ、参加者を増やし内容を充実する。</p> <p>○多様な進路希望の実現に向けて、一人ひとりに適した進路指導を行い、資格取得に向け目標を設定させ計画的な学習を支援する。</p>	<p>①基礎力テストを活用し生徒の学力を把握し教職員研修を実施する。学力向上の目標値を掲げて伸ばす指導、授業改善を行う。</p> <p>②知識の抜け落ちがないよう、基礎固めの補習を実施し、学習に向かう雰囲気作りを行う。実力増進講座、社会体験学習、授業公開等、質の高い効果的な取組を計画実施する。</p> <p>③三年間を見通し早い時期から進路指導を行う。基礎学力の定着に努め小論文や面接に対応できるよう幅広い知識を身に付けさせる。</p>	<p>①「授業が理解できているか」という生徒の割合90%以上。</p> <p>②補習へ参加する生徒の人数を昨年度よりも増加させる。また、欠点を取る生徒は減少したか。</p> <p>③年間で資格テスト受験率一人1つ以上を目指し、生徒の個々の受験の割合30%以上。また、合格者数を上げる。</p>	<p>① 多様な生徒に対して、基礎力テストを実施し、実態を把握しながらICTの活用や指名補習、勉強マラソン等を活用して理解の促進を進めた。結果としてD3ゾーンの人数が減り、Bゾーンの生徒が3学年とも増加した。</p> <p>② 前半は補習や勉強マラソンへの参加率が昨年より高かったが、後半は全体の5分の1程度と伸び悩んだ。授業には真面目に臨んでいる生徒が多いので、より具体的な指導を行い、知識の定着を固めていく。</p> <p>③ 資格テストの受験者は、担当から案内し進めてきたが、昨年と同程度となる。進路は大学受験者が15%から30%に増え、1人1人の進路実現に貢献できた。</p>	B	<p>多様で特性のある生徒が増加し、具体的で分かりやすい指導がより求められている。学ぶ機会の確保と効率の良い指導を進めていく必要がある。進路指導を1学年から丁寧に指導し、将来を考える基盤づくりを進める。</p> <p>資格取得の意義を丁寧に伝え、取得率の向上を目指す。各進路における学費などの情報も提供していくことで、進路選択の幅を広げられるようにする。</p>	<p>土曜勉強マラソン、指名補習、部活動勉強会など特徴的な取組は大切であるが、統合して効果的に実施することも大切である。それぞれのバランスは難しいと思うが、働き方改革にもつながる部分もあるので、十分検討して質は確保しつつ、新たな取り組みに期待したい。</p> <p>授業におけるタブレット使用率が昨年の約6割ほどから約8割に向上した。小学校、中学校とタブレット等端末を使用していることで、高等学校での使用では生徒は比較的困難さなく取り扱える利点がある。端末で様々な情報を得ることで授業も大きく変化する。一方、中学校では対黒板の良さも見直されて半数ぐらいの活用がある。双方の良さをうまく取り入れて効果的な授業としていくのが期待される。</p>
2	<p>【現状】生徒の多くは校則を遵守し落ち着いた生活を送っているが、未だ意志が弱く自己管理を徹底することができない生徒もみられる。</p> <p>【課題】生徒一人ひとりの資質を理解し人権に配慮し、家庭と連携し個に応じた指導と社会で認められる人材を育成する。また、春日部特別支援学校宮代分校との合同行事をさらに活発にし、本校生徒及び保護者のインクルーシブ教育への理解を深める。</p>	<p>○家庭と連携し、学年・生徒指導等情報を共有して、個の特性に応じたきめ細かな指導を徹底する。</p> <p>○充実した学校生活を目指し、魅力ある学校づくりを実践する。また、教育相談を充実させる。</p> <p>○インクルーシブ教育を充実させ、共生できる学校づくりを行う。</p>	<p>①時間を守る意識をSHRや集会で呼びかけ、生活習慣を確立し落ち着いた学校生活を送れるよう支援していく。長欠と欠席者について教務上のサポートや保健関係の講演会を実施する。</p> <p>②目的を持って部活動に参加できるよう内容を工夫し80%以上加入を維持する。</p> <p>③進路行事に加え、一人一人の進路への理解を深める面談を行う。また、探究活動に加え、社会体験やボランティア活動を増やす。</p>	<p>①遅刻・欠席・早退者、生徒指導の件数を減少させる。</p> <p>②部活動への参加者を増やす。また、教育相談は有効であったか。</p> <p>③人間性向上に役立つインクルーシブ教育を充実させ、講演会や分校との連携事業を、定期的実施する。</p>	<p>① 昨年から生徒指導件数は半数近く減少した。しかし、3年目を迎えた3学年の生徒指導件数が多く、全体を通じて引き続き落ち着いた学校生活を送れるよう支援体制を整理する必要がある。</p> <p>② 部活動の加入率が上がり、途中退部の生徒も少なかった。部活動での成果が実り始め、生徒が実感として成長を感じられるようになった部活が多い。</p> <p>③ 分校との行事の実施を深め、講演会行事など授業における共有の場が増えた。修学旅行も合同実施ができ、課題はありつつも発展した取り組みとなった。</p>	B	<p>校則においては、十分に周知されていない部分がある。本校の校則や生徒指導の観点を入学時、学年PTA等で丁寧に示す必要がある。生徒・保護者が学校運営を理解して過ごせるようにする必要がある。</p> <p>生徒や保護者が抱える不安や疑問、不満を傾聴したうえで学校が果たすべき役割や内容を具体的に伝えていく必要がある。</p>	<p>進路変更する生徒については、生徒本人の状況はもちろんであるが、家庭環境によるものも大きい。生徒個々が目標を明確にできれば、目標のある生徒は意欲があるので学校生活を頑張る姿がみられる。教員側が小さな変化を受け止めて賞賛や評価をしていく度量をもつことが大切である。</p> <p>整容指導は高校だけでなく、中学校でも保護者からの意見は多い。学校で大切にしている点を具体的に年度等当初に生徒・保護者に伝えて不安や混乱を軽減できるようにしていきたい。</p>
3	<p>【現状】生徒会や部活動を中心に、地域（宮代町、町教委、自治会、商工会）交流や異校種交流事業を行い、豊かな人間性と社会性を育成する機会を持つことができている。</p> <p>【課題】様々な手段や機会を用いて、本校の教育活動や生徒の活躍を広報する。PTAや地元機関とさらに連携して、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>○学校内外の教育資源、地域資源を活用した交流事業や春日部特別支援学校宮代分校との合同行事を増やし、継続する。</p> <p>○保護者や中学生に魅力ある情報発信をし、入学希望者数の増加につなげる。</p>	<p>①生徒会や部活動で地域交流活動に参加し、生徒の活躍を積極的に広くPRし、自信と意欲を持たせる。地域から信頼される学校づくりを実践する。</p> <p>②HPは本校生徒・保護者の活用を増やし、学校への興味関心を引き付ける。電子掲示板による情報提供で活動しやすくし、校内活性化、明るい学校にする。</p>	<p>①近隣小中学校等との連携活動、地域交流や地域貢献活動等、生徒の活躍の場と機会を増やす。</p> <p>②HPは、学校行事や学年の取組、部活動等、内容を充実させる。生徒・保護者連絡は効果的に適宜発信する。関係諸機関との連携を大切にする。</p>	<p>① 地域の清掃活動、飲酒防止運動、敬老会、ランタンイベント参加、賀詞交換会などに参加し、生徒活躍の場が広がり、学校の周知にも繋がった。昨年より3行事ほど拡大することができた。</p> <p>② HPは今年度も週1～2回更新できた。部活動の様子も部活担当が積極的に情報発信し、広く案内することができた。チャイムリーを設定できたことで、一斉メールや欠席連絡を電子化して連携しやすく設定できた。</p>	A	<p>地域からの依頼や商工会を通じての依頼、学校HPにおける案内を通して、より地域貢献と学校を周知できる土壌づくりをする必要がある。</p> <p>チャイムリーをより有効に活用し、各種通知を一斉に周知する。各種通知がスマホ等でリアルタイムに周知できるように整えていく必要がある。</p>	<p>生徒会や地域への活動では、よく頑張っていると感じられる。部活動では吹奏楽部の演奏や書道部の書道パフォーマンスは多くの人を盛り上げることができた。引き続き地域への貢献とともに宮代高等学校の取組をより周知できると良い。学校のホームページに同窓会ページを作ったので、学校と同窓会できるとタイアップして取り組めるとよい。</p>